

平成8年度
大阪府下における予防接種の実施成績に関する研究
(風しん・中学生)

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大阪市	25,172	1,399	5.6 %
大池田	1,099	253	23.0 %
箕面市	1,500	195	13.0 %
豊能町	501	165	32.9 %
能勢町	227	54	23.8 %
豊中市	4,098	295	7.2 %
吹田市	3,638	557	15.3 %
高槻市	3,118	791	25.4 %
枚方市	3,528	827	23.4 %
守口市	1,500	49	3.3 %
門真市	1,271	19	1.5 %
大東市	1,454	43	3.0 %
四條畷市	814	50	6.1 %
東大阪市	4,495	652	14.5 %
八尾市	2,771	328	11.8 %
堺市	8,214	1,331	16.2 %
泉大津市	760	30	3.9 %
岸和田市	2,174	590	27.1 %
貝塚市	784	389	49.6 %
19 市	67,118	8,017	11.9 %

<集団接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
摂津市	895	193	21.6 %
茨木市	3,166	1,318	41.6 %
島本町	418	321	76.8 %
寝屋川市	2,800	787	28.1 %
交野町	796	289	36.3 %
柏原市	850	494	58.1 %
松原市	1,375	439	31.9 %
羽曳野市	1,347	738	54.7 %
藤井寺市	709	443	62.5 %
大阪狭山市	589	478	81.2 %
美原町	464	310	66.8 %
富田林市	1,649	866	52.5 %
河内長野市	1,454	994	68.3 %
河南町	173	126	72.8 %
太子町	140	107	76.4 %
千早赤阪村	94	66	70.2 %
和泉市	2,504	1,421	56.7 %
高石市	1,413	995	66.4 %
忠岡町	174	75	43.1 %
泉佐野市	1,035	506	48.8 %
熊取町	605	389	64.3 %
田尻町	76	41	53.9 %
泉南市	760	216	28.4 %
阪南市	775	26	3.4 %
岬町	250	170	68.1 %
25 市	24,511	11,808	48.2 %

平成9年度
大阪府下における予防接種の実施成績に関する研究
(風しん・中学生)

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大池	25,454	4,978	19.6 %
阪市	930	276	29.7 %
田市	1,431	372	26.0 %
面市	472	126	26.7 %
能町	604	84	13.9 %
勢中	3,851	341	8.9 %
豊田	3,590	1,064	29.6 %
吹撰	907	122	13.5 %
高津	3,441	688	20.0 %
枚方	4,437	1,052	23.7 %
守口市	1,559	84	5.4 %
門真	1,271	83	6.5 %
大東	1,436	278	19.3 %
四條	525	74	14.1 %
東大阪	4,313	879	20.4 %
八尾	4,000	564	14.1 %
堺市	7,724	2,132	27.6 %
和泉	2,049	398	19.4 %
大津	500	58	11.6 %
岸和田	2,167	759	35.0 %
貝塚	784	389	49.6 %
泉野	962	285	29.6 %
22 市	72,407	15,086	20.8 %

<集団接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
茨木	2,944	1,464	49.7 %
島本	356	250	70.2 %
寝屋川	2,486	682	27.4 %
交野	561	323	57.6 %
柏原	864	462	53.4 %
松原	1,270	578	45.5 %
羽曳野	1,246	732	58.7 %
藤井寺	670	464	69.3 %
大阪狭山	569	438	76.9 %
大原	503	346	68.8 %
美内	1,414	894	63.2 %
河内長野	1,723	948	55.0 %
富田	132	123	93.1 %
河太	159	77	48.4 %
千早	86	55	63.9 %
高石	670	537	80.1 %
忠岡	90	88	97.8 %
熊取	595	409	68.7 %
田尻	63	44	69.8 %
泉南	768	92	12.0 %
阪南	638	423	66.3 %
岬	180	150	83.3 %
22 市	17,987	9,579	53.3 %

平成10年度
大阪府下における予防接種の実施成績に関する研究
(風しん・中学生)

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大池	25,223	3,720	14.7 %
阪市	2,100	283	13.5 %
田市	1,501	323	21.5 %
箕面	409	134	32.7 %
豊能	587	66	11.2 %
豊中	3,851	334	8.7 %
吹田	3,570	983	27.5 %
摂津	820	116	14.1 %
高槻	3,661	675	18.4 %
枚方	4,182	902	21.6 %
守口	1,362	236	17.3 %
門真	1,153	47	4.1 %
大東	1,387	211	15.2 %
四條	566	60	10.6 %
東大阪	4,255	733	17.2 %
八尾	2,685	392	14.5 %
堺	7,642	2,191	28.7 %
和泉	2,330	608	26.1 %
岸和田	160	58	36.3 %
泉南	2,250	829	36.8 %
岸和田	848	272	32.1 %
貝塚	986	466	47.2 %
泉野	77	21	27.3 %
田尻	77	21	27.3 %
23 市町	71,605	13,660	19.1 %

<集団接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
茨木	2,987	1,501	50.3 %
島本	379	315	83.1 %
寝屋川	2,536	739	29.1 %
交野	550	343	62.4 %
柏原	820	420	51.2 %
松原	1,245	529	42.5 %
羽曳野	950	750	78.9 %
藤井寺	665	518	77.9 %
大阪狭山	590	465	78.8 %
美原	428	311	72.6 %
富田	1,686	1,116	66.2 %
河内長野	1,232	711	57.7 %
河内南	198	132	66.7 %
太子	176	100	56.8 %
早稲	86	59	68.6 %
高石	609	522	85.7 %
忠岡	178	86	48.3 %
熊取	536	377	70.3 %
泉南	729	187	25.7 %
阪南	759	414	54.6 %
岬	224	141	62.9 %
21 市町村	17,563	9,736	55.4 %

平成11年度
大阪府下における予防接種の実施成績に関する研究
(風しん・中学生)

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大池	24,704	4,583	18.6 %
阪市	1,790	350	19.6 %
面市	1,479	427	28.9 %
箕能	368	88	23.9 %
豊能	614	63	10.3 %
豊中	3,851	353	9.2 %
吹田	3,130	1,032	33.0 %
摂津	741	95	12.8 %
高槻	3,555	715	20.1 %
枚方	4,300	823	20.6 %
守口	1,436	309	21.5 %
門真	1,187	11	0.9 %
大東	1,317	244	18.5 %
四條	509	60	11.8 %
大東	3,993	850	21.2 %
八尾	2,435	637	26.1 %
松原	1,223	632	51.7 %
堺	7,290	2,163	29.7 %
泉	2,077	751	36.2 %
大津	300	108	36.0 %
和泉	2,198	710	32.3 %
岸和田	964	255	26.5 %
貝塚	975	312	32.0 %
泉野	56	30	53.6 %
24 市町	70,492	15,601	22.1 %

<集団接種>

茨木	2,965	1,445	48.7 %
島本	396	306	77.3 %
寝屋川	2,347	1,014	43.2 %
交野	569	374	65.7 %
柏原	809	310	38.3 %
羽曳野	1,191	633	53.1 %
藤井寺	667	554	83.1 %
大阪狭山	559	482	86.2 %
美原	510	371	72.7 %
富田	1,497	935	62.5 %
河内長野	1,230	791	64.3 %
河内	196	151	77.0 %
太千早	170	67	39.4 %
赤阪	71	55	77.5 %
高石	656	510	77.4 %
忠南	165	87	52.7 %
泉南	682	113	16.6 %
阪南	742	410	55.3 %
岬	186	110	59.1 %
19 市町村	15,608	8,718	55.9 %

<個別・集団併用接種>

熊取町	537	352	65.5 %
-----	-----	-----	--------

平成 12 年度 大阪府下における予防接種の実績に関する研究（風しん・中学生）

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大阪市	24,063	3,259	13.5%
池田市	1,820	319	17.5%
箕面市	1,414	249	17.4%
豊能町	368	88	23.9%
能勢町	667	45	6.7%
豊中市	3,822	363	9.5%
吹田市	3,274	617	18.8%
摂津市	750	109	14.5%
高槻市	10,492	466	4.4%
枚方市	4,300	599	13.9%
守口市	1,369	218	15.9%
門真市	1,102	24	2.2%
大東市	1,282	144	11.2%
四條畷市	545	56	10.3%
東大阪市	3,991	702	17.6%
八尾市	2,785	314	11.3%
堺市	3,894	1,331	34.2%
和泉市	2,027	723	35.7%
泉大津市	100	79	79.0%
忠岡町	156	48	30.8%
岸和田市	2,240	745	33.3%
貝塚市	448	270	60.3%
泉佐野市	997	349	35.0%
熊取町	527	299	56.7%
田尻町	60	17	28.3%
25 市町	72,493	11,433	15.8%

<集団接種>

茨木市	2,878	1,467	51.0%
寝屋川市	2,283	995	43.6%
交野市	498	286	59.4%
柏原市	598	290	48.5%
松原市	1,176	538	45.7%
羽曳野市	1,000	791	79.1%
藤井寺市	658	509	77.4%
大阪狭山市	556	439	79.0%
美原町	492	363	73.8%
富田林市	2,358	1,399	59.3%
河内長野市	1,003	493	49.2%
河内南町	254	222	87.4%
太子町	188	73	38.8%
千早赤阪村	72	59	81.9%
泉南市	672	180	26.8%
阪南市	698	402	57.6%
岬町	212	155	73.1%
17 市町村	15,596	8,661	55.5%

<個別・集団併用接種>

島本町	396	243	61.4%
高石市	270	219	81.1%
2 市町	666	462	69.4%

平成13年度 大阪府下における予防接種の実績に関する研究（風しん・中学生）

<個別接種>

自治体	接種対象者数	接種者数	接種率
大阪市	23,828	1,825	7.7%
池田市	1,690	211	12.5%
箕面市	707	112	15.8%
豊能町	1,270	38	3.0%
能勢町	507	33	6.5%
豊中市	3,809	236	6.2%
吹田市	4,249	575	13.5%
摂津市	724	73	10.1%
高槻市	5,185	213	4.1%
枚方市	6,200	210	3.4%
寝屋川市	2,190	54	2.5%
守口市	1,402	169	12.1%
門真市	1,145	18	1.6%
大東市	1,227	115	9.4%
四條畷市	223	51	22.9%
交野市	524	68	13.0%
東大阪市	769	563	73.2%
八尾市	1,748	137	7.8%
河内長野市	1,470	15	1.0%
河南町	20	3	15.0%
堺市	3,235	799	24.7%
和泉市	1,040	502	48.3%
泉大津市	150	126	84.0%
高石市	6	2	33.3%
忠岡町	162	34	21.0%
岸和田市	2,006	612	30.5%
貝塚市	835	87	10.4%
泉佐野市	488	282	57.8%
熊取町	245	52	21.2%
田尻町	31	8	25.8%
30市町	67,085	7,223	10.8%

<集団接種>

茨木市	2,427	878	36.2%
柏原市	375	139	37.1%
松原市	596	389	65.3%
羽曳野市	275	209	76.0%
藤井寺市	262	160	61.1%
大阪狭山市	273	210	76.9%
美原町	196	126	64.3%
富田林市	99	97	98.0%
太子町	93	36	38.7%
千早赤阪村	41	29	70.7%
泉南市	396	122	30.8%
阪南市	367	133	36.2%
岬町	193	97	50.3%
13市町村	5,593	2,625	46.9%

<個別・集団併用接種>

島本町	330	188	57.0%
-----	-----	-----	-------

大阪市における予防接種の実施成績に関する研究

大國 英和（大阪市環境保健協会）

半野田孝郎（大阪市健康福祉局感染症対策室予防課）

大阪市における麻しんワクチン定期接種の実施成績

平成13年 4月から平成14年 3月迄の1年間に、大阪市において実施した麻しんワクチンの実施状況について、各区ごとにワクチンの実施率と摂取見合せ者数を比較しながら報告する。昭和63年12月19日に予防接種実施規則第21条が改正され、麻しんの定期的予防接種に当たって、同時に風しんおよびおたふくかぜの予防接種を受ける旨の申し出があった者については、乾燥弱毒性麻しん・おたふくかぜ・風しん混合ワクチン（MMRワクチン）を使用することができることとなった。これをうけて大阪市も平成元年4月からMMRワクチンを接種することになったが、ワクチン接種後の無菌性髄膜炎の発生が全国的に問題となり、そのためMMRワクチン接種の慎重接種の時期を経て、麻しん単独ワクチンの使用を原則としたワクチン接種方式、平成5年4月27日の厚生省によるMMRワクチンの見合せ通達以降は麻しんワクチン単独の接種となっている。平成13年度の大阪市における麻しんワクチンの接種者数は23,734人であり、実施率は対象人員を平成12年1月から平成12年12月迄の出生者25,013人とすると実に96.1%となる。ちなみにこの接種率は平成6年度64.7%、平成7年度84.2%、平成8年度79.2%、平成9年度79.6%、平成10年度79.6%、平成11年度85.1%、平成12年度87.0%であり過去最高である。この理由として、本年は新聞やテレビなどによる麻疹患者多発の報道や、大阪小児科医会による「お誕生日のプレゼントに麻しんワクチンを！」というキャンペーン等の効果の結果と思われる。

大阪市内の各区ごとの対象人員と接種率を表に示した。接種率の高い区は中央区、此花区、東成区、旭区、住吉区であり、本年は実に100%を超えた。接種見合わせ者の総数は988人、4.0%であり平成6年までの0.5～0.7%という数字にくらべて平成7年度からは急激に増加した。この数字は平成12年度の4.1%とほぼ同じである。各区ごとの接種見合せ者率を比較すると、都島区、阿倍野区、東成区、住之江区、鶴見区が際立って多いようである。麻しんワクチンに含有されていたゼラチンによるアレルギーの発生が話題になったが、現時点ではどのメーカーの製品もゼラチンは含有されていないしタマゴアレルギーも関係のないことが判っている。大阪市では、市内の医療機関に接種を委託しており、どのワクチンメーカーの製品を使用するかは、各医療機関の自由選択となっている。またワクチンの接種費用は全額公費負担である。

麻疹予防接種実施成績（平成13年度）

区分 區別	* 対象人員	接種者数	接種率%	見合せ者数 (%)
総 数	24,690	23,734	96.1	988 (4.0)
北 区	743	681	91.7	22 (3.1)
都 島 区	808	798	98.8	50 (5.8)
福 島 区	532	516	97.0	21 (3.9)
此 花 区	625	650	104.0	20 (2.9)
中 央 区	393	411	104.6	12 (2.7)
西 区	632	609	96.4	28 (4.3)
港 区	833	758	91.0	31 (3.9)
大 正 区	637	623	97.8	29 (4.4)
天 王 寺 区	469	467	99.6	22 (4.5)
浪 速 区	397	292	73.6	11 (3.6)
西 淀 川 区	1,012	1,022	101.0	31 (2.9)
淀 川 区	1,551	1,311	84.5	31 (2.2)
東 淀 川 区	1,897	1,740	91.7	90 (4.9)
東 成 区	741	768	103.6	45 (5.5)
生 野 区	1,225	1,131	92.3	44 (3.7)
旭 区	837	866	103.5	42 (4.6)
城 東 区	1,597	1,587	99.4	72 (4.3)
鶴 見 区	1,432	1,421	99.2	75 (5.0)
阿 倍 野 区	792	798	100.8	49 (5.7)
住 之 江 区	1,288	1,272	98.8	71 (5.2)
住 吉 区	1,640	1,659	101.2	38 (2.2)
東 住 吉 区	1,319	1,273	96.5	44 (3.3)
平 野 区	2,539	2,448	96.4	83 (3.2)
西 成 区	751	633	84.3	27 (4.1)

* 対象人員 平成12年1月～12月の出生数

大阪府医師会予防接種センター月別実施成績（平成13年度）

大國 英和、村岡 徹二、奥野 良信、伯井 俊明（大阪府医師会予防接種センター）

平成6年6月大阪府医師会保健医療センターの建物が竣工したときに、大阪府医師会は、近隣の医療機関で予防接種を受けにくい府民などを対象にして予防接種を実施することが必要であるという判断から、大阪府医師会予防接種センターを設営し活動を開始させた。

ここでは主として、海外渡航者に対する予防接種、府内の医療機関で接種をためらわれた者に対する接種、定期の接種時期からはずれた者に対する接種、予防接種に関する相談事業などをおこなってきた。

この事業は大阪府医師会の理事をセンター長とし、大阪府医師会予防接種委員会の委員、府医の会員のなかで協力することを申し出た医師ならびに保健医療センターの事務職員・看護婦などによっておこなわれており、毎週1回火曜日と最終週の木曜日に予防接種センターが開設されている。

実施されている予防接種の種類は三種混合（DPT）、ポリオ、麻疹、風疹、日本脳炎、インフルエンザ、水痘、A型・B型肝炎、コレラ、狂犬病、結核など黄熱病を除く殆どのが実施されている。

事業成績のあらましは、予防接種実施者（延べ）、抗体検査者、相談者などで、平成13年度は4,188人である。この内海外渡航者が968人を占めている。各ワクチン別の実施内容を付表に示した。

本年の事業のなかで特記すべき事例は、トルコで犬に噛まれた28歳の女性に狂犬病のワクチンを接種したとき、接種後約6時間後から毎回38.6℃の発熱を経験したことである。第3回目からの接種では抗ヒスタミン剤の前投与を行ってから接種を続行し、規定回数を終了できたことである。なおワクチンは化血研製のものを使用した。

大阪府医師会予防接種センター— 月別実施一覧表(平成13年度)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計			
	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	公費	
三種混合	17	9	22	12	19	13	17	12	11	10	17	10	14	9	6	12	7	12	9	18	10	24	19	18	13	196	134	
二種混合	24	2	14	0	17	1	20	11	9	2	10	4	3	0	3	1	6	1	6	1	3	0	9	1	9	0	127	23
ジフテリア	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	15	0	
破傷風	16	0	25	0	14	0	39	0	26	0	25	0	20	1	10	0	15	0	14	0	14	0	35	0	33	0	272	1
ポリオ	82	2	81	3	49	1	63	3	25	0	30	0	34	1	39	2	29	0	37	2	37	1	49	2	555	17		
麻疹	12	2	28	5	33	13	19	10	10	2	14	6	7	3	6	2	6	3	8	4	13	3	24	11	180	64		
風疹	10	3	18	3	12	2	13	2	12	6	8	2	3	1	3	0	7	4	6	0	8	3	16	9	116	35		
日本脳炎	26	10	18	5	36	11	52	17	26	7	16	9	18	10	8	5	7	4	6	2	17	3	27	13	257	96		
ツベルクリン反応	12	0	11	0	9	1	5	0	5	0	1	0	0	0	2	0	1	0	3	0	5	0	5	0	59	1		
BCG	6	2	2	0	6	1	2	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	5	0	5	0	31	5		
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180	39	92	19	23	3	3	0	0	0	298	61		
おたふくかせ	14	0	21	0	19	0	11	0	10	0	8	0	7	0	8	0	4	0	8	0	5	0	5	0	18	0	133	0
水痘	2	0	3	0	3	0	6	0	2	0	4	0	4	0	2	0	2	0	6	0	5	0	5	0	6	0	45	0
B型肝炎	24	0	171	0	254	0	147	0	28	0	27	0	39	0	131	0	32	0	117	0	44	0	44	0	36	0	1050	0
A型肝炎	22	0	33	0	36	0	55	0	28	0	22	0	30	0	20	0	14	0	31	0	53	0	53	0	43	0	387	0
狂犬病	13	0	16	0	11	0	14	0	3	0	10	0	12	0	7	0	12	0	12	0	30	0	30	0	32	0	172	0
コレラ	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	12	0	
ガンマグロブリン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗体検査	22	0	19	0	12	0	15	0	10	0	3	0	2	0	5	0	12	0	4	0	10	0	10	0	6	0	120	0
相談	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
証明書	25	0	29	0	27	0	23	0	9	0	5	0	1	0	4	0	8	0	3	0	12	0	12	0	16	0	162	0
合計	329	30	514	28	559	43	507	57	218	27	202	35	191	22	441	56	261	40	304	21	319	30	343	48	4188	437		

公費は内数

海外渡航者	87	106	67	116	67	47	62	42	56	128	111	968
-------	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

インフルエンザワクチン接種者の罹患及び意識調査

指原 淳志、宮川 広実、大藪 恵一（大阪大学大学院医学系研究科小児発達医学講座）

天羽 清子（大阪大学大学院医学系研究科小児発達医学講座、大阪府立公衆衛生研究所）

秋山 正尊（阪大微生物病研究会）

山西 弘一（大阪大学大学院医学系研究科微生物学講座）

（対象と方法）

I 大阪大学医学部附属病院小児科ワクチン外来を 2001/2002 シーズンにインフルエンザワクチン接種を希望し、接種した患者 293 名（1 回接種 34 名、2 回接種 259 名）に対し、以下の項目を含むアンケート調査を行った。

II 2002/2003 シーズンにワクチン接種を希望したものの一部で、ワクチン接種直前のインフルエンザ抗体価を HI 法にて測定した。

（結果）

I アンケートの回答は 181 名から得られた（回答率 61.8%）。回答が得られた患者の接種時年齢は 1 才～29 才（平均年齢 6.3 才）、1 回接種が 14 名、2 回接種が 167 名であった。

1. ワクチンを希望した理由：最も多かったのは「基礎疾患を有するため」で 181 名中 118 名（65.2%）、ついで「脳炎、脳症に対する不安」も 46 名（25.4%）が挙げていた。
2. 接種後の副反応：接種部位の腫脹と発熱がそれぞれ 12 名（6.6%）、接種後の倦怠感 4 名（2.2%）で認められた。その他てんかんを基礎疾患に持つ 2 名で接種後に痙攣が、喘息を基礎疾患にもつ 1 名で喘息発作が認められた。このうち 3 日以内の発熱（ $\geq 38^{\circ}\text{C}$ ）は 6 名（3.3%）、3 日以内に出現した発疹・掻痒は 2 名（1.1%）、5cm を超える接種部の腫脹 3 名（1.7%）であった。
3. 接種後のインフルエンザ罹患：2001/2002 シーズン中 38.5°C 以上の発熱を見たものは 80 名、このうちインフルエンザを疑われた者は 18 名（7.0%）であった。16 名が迅速診断キットを用いた診断をなされていた。（陽性 10 名、陰性 6 名）。
4. 同居家族の罹患：同居家族がインフルエンザの罹患があったと解答したものは 15 名（8.3%）で、そのうちの 8 名が検査により確定診断されていた。15 名のうち、10 名はアンケート対象児にインフルエンザ症状は認められなかったが、5 名はインフルエンザと診断されていた。
5. 次季の接種希望：2002/2003 シーズンにもインフルエンザワクチンを希望すると答えた者は全体で 90%、インフルエンザ罹患があった中でも 92% と高い値を示した。

II 2002 秋（ワクチン接種直前）の時点での 2002/2003 流行予測株に対する ≥ 40 の抗体価の保有率（%）を示す。

	0-3y (n=5)	3-6y (n=25)	6-9y (n=26)	9y- (n=16)	total (n=73)
H1N1	0.0	48.0	73.1	81.3	61.1
H3N2	20.0	60.0	84.6	81.3	70.8
B	0.0	0.0	26.9	31.3	16.7

（考察）基礎疾患を持つためという理由に加え、小児の脳炎脳症に対する不安から接種を希望するものが多く、またインフルエンザ罹患があっても次季のワクチンを希望するものが多かった。インフルエンザへの関心の高さをうかがわせる結果となった。抗体価測定の結果からは、B 型インフルエンザの対策が急務であることが示唆された。

今シーズン（2002／2003年）のインフルエンザについて ——大阪北部の1小児科診療所が把握した流行状況——

馬場 宏一（医療法人宏知会ばば小児科）

インフルエンザ様疾患を疑った最初の症例（平成14年11月22日）から、今期の流行が終息に近づいたと思われた平成15年3月14日までの期間に、当院を受診した患者から得られた検体（鼻汁）について、簡易キットを用いて抗原検索を行い今シーズンの流行状況を調査した。

■検査対象者

典型的なインフルエンザは高熱、頭痛、関節痛、食思不振などを伴って発症するが、当院では0～3歳の受診が多いこと、ワクチン接種者も多数含まれたことから、“軽症のインフルエンザウイルス感染者”も想定して検査対象とした。

■診断

簡易キットによる抗原陽性者をインフルエンザウイルス感染者としたが、たとえ抗原陰性であっても、または検査を行わなくても、患者の家族、集団生活の場における感染機会の濃度と典型的な症状から“臨床的インフルエンザ”と診断できる場合もあった。

■簡易キット

インフルエンザA・Bクイック（デンカ生研）、キャピリアFluA・B（タウンズ）、エスプラインA・B（富士レピオ）、ラピッドビューA・B（住友）を単独または組み合わせて用いた。

■結果

検査は、1426名について行った（図1）。その内、抗原陽性者は502名（35、2%）であったが、他に、“臨床的インフルエンザ”と診断した者は68名いた。これらの者の合計570名の年齢別、性別構成（表）から、0歳児を含む多数の乳幼児が、男女を問わず罹患したことが分かる。

検体の抗原検出率（図3）は、シーズン中を通じて、0～100%まで変動している。典型的な症状を呈していても、RSウイルス、アデノウイルス、ロタウイルス等が検出されたケースも少なからず含まれていた。

流行は、平成14年12月末～15年1月中旬をピークに始まり（A型・図4）、

2月中旬～3月初めにわたってB型（図5）のピークを形成した。今シーズンはB型インフルエンザの流行の規模がかなり大であったことが分かる。

B型インフルエンザのピーク時には、A・B抗原同時陽性者が8名いた（図6）。

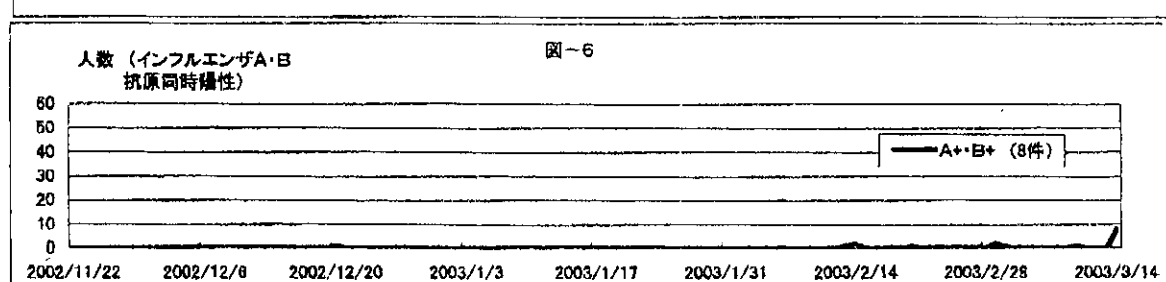
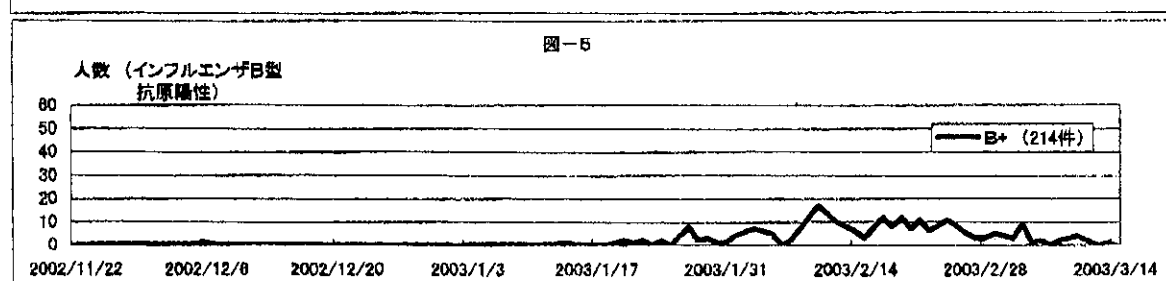
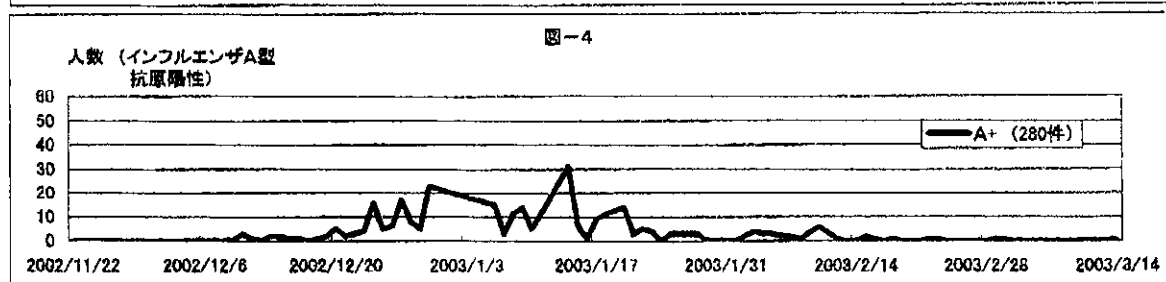
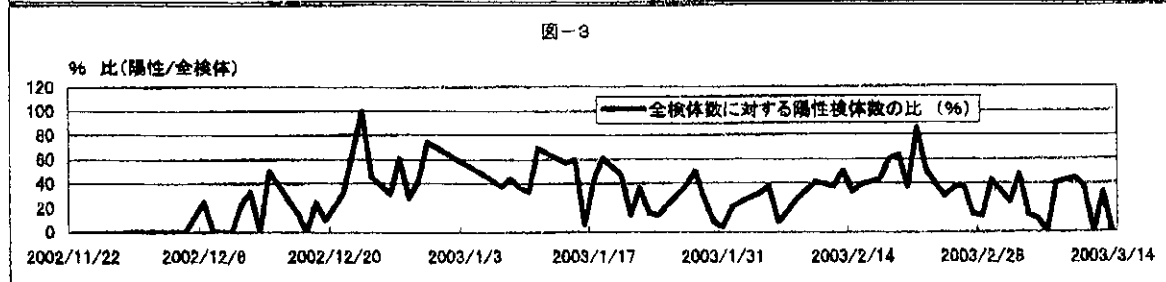
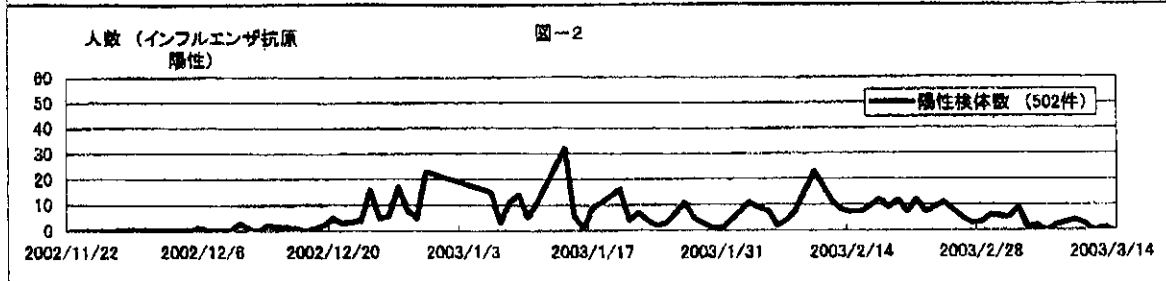
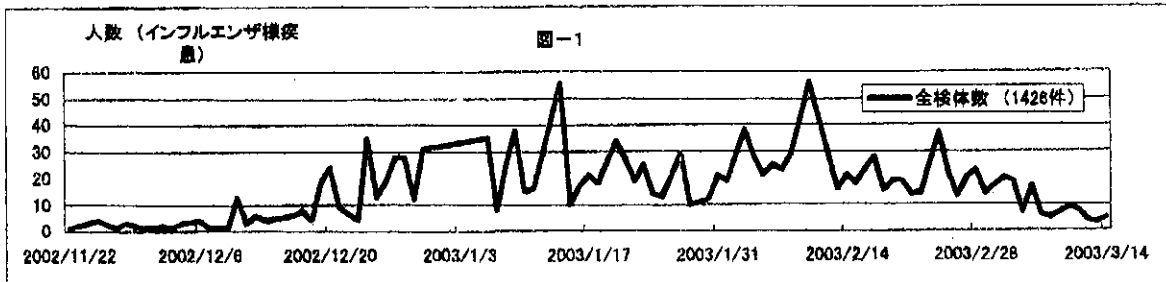
■考察

抗原検出用簡易キットは、インフルエンザ感染者の診断に極めて有用である。抗インフルエンザ薬による治療対象者を適確に選ぶためにも、また、ワクチンの有効性を判断するためにも、今後ますますその価値が評価されるようになるものと思われる。

表：今シーズン（2002/003年）のインフルエンザ患者構成（ばば小児科）

年齢（歳）	人数（名）		計（%）
	男	女	
0	18	18	36（6.3）
1	39	39	78（13.7）
2	36	37	73（12.8）
3	37	32	69（12.1）
4～6	85	77	162（28.4）
7～9	36	23	59（10.4）
10～12	20	26	46（8.1）
13～15	3	6	9（1.6）
16～	11	27	38（6.7）
計	285	285	570※

※“臨床的インフルエンザ”68名を含む



予防接種受診率——従来行われていた方法と1歳6か月健診受診者への聞き取り調査結果の比較——和歌山市、田辺市などの経験

小池 通夫、南 弘一（和歌山県立医科大学）

木下 純子（和歌山市保健所）

上原 俊宏、柏井 洋臣、家永 信彦、川村 仁志、

柏井 健作、津田 紀彦、吉川 明男（和歌山小児科医会）

【はじめに】

ポリオが常に100%超の結果にみられるように、従来法の予防接種率の算定は不満足なもので、磯村らを中心に本研究班でも検討が続けられてきた。1歳6か月児健診受診者の母子手帳から、聞き取る悉皆調査はその対応策の一つで、和歌山県でもその導入が計られている。今回開始9か月間の状況の評価を行ったので報告する。

【対象と方法】

聞き取り法は、2002年4—12月の1歳6か月健診時に母子手帳を参考に調査するもので、受診者のほぼ100%から回収できた。健診受診率は、ほぼ95-98%である。従来法とは2001年度まで行われてきた方法で、定められた接種対象期間に相応する月毎の出生数を中心に接種毎に移動などを勘案し算定した。BCGは出生数そのものである。ポリオ、DPTなどは複数回の接種毎に集計した（和歌山市）。

調査対象は県下人口の4割を占める和歌山市と協力をえられた田辺市、御坊市と日高郡などである。

【結果と考案】

- (1) 和歌山市 ①従来法では何れも生後3か月から始まるポリオ（2回とも集団）、DPTⅠ期（3回）、BCG（1回）は何れも100%に近い、あるいは超える値で、これは予想通りである。②聞き取り法ではBCGは100%近いが、ポリオ65.4%、DPT72.6%は低い。和歌山市は麻疹ワクチンに特に力を入れているが、それでも73.6%に過ぎなかった。1歳すぎたらすぐ接種が望ましいので、さらに対策を要する。風疹の40.8%は後述の他地区に比べ高い率である（表1）。③累積接種率（完了率）（表2）和歌山市では1997年から予防接種について成績のデータベース化を進めている。麻疹の例をとり上げると1996年生まれは2002年までの完了率は74.8%で、1歳の1年間の接種は1,395/3,929（35.5%）に過ぎないが、最近になるほどその率は改善され、2000年生まれは2,017/3,687（54.7%）に上昇し、3歳までに82.1%になっている。④年齢別麻疹接種時期（表3）同じことを2001年に麻疹接種を受けた子について月齢別に解

析したが、1歳6か月までの接種者が全体の70%を占め、2歳までの6か月に14.5%増、その後は1年間に8.0、3.4、1.7と急減している。⑤小括：接種期限の始まり後、(a)早いうちに接種をうけさせるその対策が必要であると同時に、(b)100%の完了率を達成するにはダラダラと接種を続けるのではなく3歳児健診の機会などにPRを集中するなどが必要であろう。さらにすでに90か月を過ぎた者、あるいは成人への接種対策も、発病者のみられなくなった我が国では必要であろう。

- (2) 田辺市 田辺市は和歌山市からほぼ100km南に位置する。①従来法 1998年には和歌山市より低率であったが、2001年にはすべての面で見劣りのしない成績になっている。②聞き取り調査は1歳6か月と3歳児について行われている。両者は、対象は違うが和歌山市に比し、1歳6か月児は差はない。麻疹はこの18か月の間に全く率は上がっていないが風疹は著増している(表4)。③小括：同一対象を1歳6か月、3歳と調べをすすめて行くには、予防接種成績のデータベース化しかないと思われる。④表には示さなかったが、白浜町、上富田町、南部町など田辺市をとりまく西牟婁郡は、従来法の成績だけがまとめられているが、98-01年集団で行われたポリオが60%と低率なのが田辺市とは違っている。この地域は、小児科医はすべて田辺市に集中しており、集団であっても接種機会が少ないことも一因と考えられる。
- (3) 御坊市・日高郡 和歌山市と田辺市の中間にある。日高郡はその周辺。ここは1歳6か月聞き取り、2001年と2002年12月までの成績だけが得られた(表5、6)。御坊市、日高郡との間には、差はなかったが、やはり1歳6か月だけでは完了率の検討には不十分である。

【結語】

1歳6か月児健診時の聞き取り調査を行い、従来の評価法と予防接種について和歌山市と県下で比較した。①聞き取り法は従来法のような100%を超える接種率はみられず、その意味では正確である。②早期の接種が要望される麻疹などの評価、指導に有用である。③現状では適期のワクチン接種の不十分であることが露呈している。その対策として、個人別で誕生日前など強力な広報とワクチン教育の充実が必要である。④さらに完遂率100%達成の評価には、これは不十分で予防接種のデータベース化が必要不可欠であることを述べた。⑤さらに、完了率向上も我が国では重要で、それには3歳児健診をキャンペーンの契機とすべきこと、健診受診時になど予防接種機会を増やすこと、諸外国で行われているような複数ワクチンの同時接種やMMRのような合剤製剤化、さらにより高年齢できれば成人まで予防接種の教育と接種機会の延長を認めることが必要であると考えられる。

予防接種実施状況 ==和歌山市==
(定期予防接種及びBCG)

表1

集団	予防接種名	平成10年度			平成11年度			平成12年度			平成13年度			聞き取り調査 (1歳6か月健診)				
		対象者	接種者	率(%)	対象者	接種者	率(%)	対象者	接種者	率(%)	対象者	接種者	率(%)	平成14年(4月~12月)				
														調査数	接種者率(%)			
個別	ポリオ	7,200	7,223	100.3	7,400	7,193	97.2	7,600	*4685	61.6	7,400	7,822	105.7	2,353	1,539	65.4		
別	日本 脳炎	I期	11,000	7,729	70.3	11,600	8,646	74.5	12,000	8,673	72.3	12,600	8,988		71.3	4-12月 健診対象 児 2, 582人 受診率 92.2%	1,713	72.6
		II III期	8,600	2,868	33.3	8,500	3,315	39.0	8,300	3,050	36.7	7,300	2,840		38.9			
別	DPT	I期	14,500	14,074	97.1	15,000	14,453	96.4	15,300	14,120	92.3	15,100	14,023		92.9	960	40.8	
		II期	4,200	2,292	54.6	4,000	2,244	56.1	4,100	1,918	46.8	3,600	1,875		52.1			
別	風疹	(12~90月)	3,700	3,233	87.4	3,900	3,349	85.9	3,900	3,552	91.1	3,900	3,532		90.6	1,736	73.8	
		(経過措置)	4,400	988	22.5	4,200	1,141	27.2	2,200	789	35.9	660	293		44.4			
別	麻疹	3,700	3,374	91.2	3,900	3,536	90.7	3,900	3,717	95.3	3,900	3,851	98.7					
集団	BCG (4歳未満)	3,638	3,750	103.1	3,504	3,602	102.8	3,646	3,653	100.2	3,524	3,608	102.4	2,353	2,306	98.0		

対象者数 定期予防接種の対象者はそれぞれの標準接種時期に相当する対象者人口に前年の実績を加味して算出したもの
(予算要求用に近似値)

BCGの対象者は毎月の4か月健診対象者(出生数から各月現在の転出・転入を補正したもの)の合計。
接種率が100%を超えるのは 1-4歳未満児の接種者を含めてこの分母で計算するため

接種者数 ポリオほか 複数回の接種が必要なものはその年度中の接種延べ数
平成12年度のポリオ 接種者*は春季5日間のみ実施(副反応の疑いのため全国的に一時中止となったため)

聞き取り調査 調査実施=1歳6か月児健診受診者(3センターで各月延べ4回実施)
調査期間=平成14年4月から12月末(継続中)
方 法=問診及び母子健康手帳の記録確認
調査実施者=保健師

表2

★ 麻疹ワクチン接種状況 ==和歌山市==

接種 年月令	接種時期 入力データ数	2001(H13)	2002(H14)	2002(H14)	計	率 (%)		
		10~12末	1~3末	4~9末		100	100	100
1Y0M≤	125	251	608	984	27.6	52.4	69.6	
1Y1M≤	79	141	277	497	13.9			
1Y2M≤	67	130	191	388	10.9			
1Y3M≤	35	92	124	251	7.0			
1Y4M≤	40	59	109	208	5.8			
1Y5M≤	35	42	79	156	4.4	17.2	14.5	
1Y6M≤	21	40	66	127	3.6			
1Y7M≤	16	40	65	121	3.4			
1Y8M≤	15	23	60	98	2.7			
1Y9M≤	10	13	35	58	1.6			
1Y10M≤	7	19	33	59	1.7	4.8	14.5	
1Y11M≤	14	9	32	55	1.5			
2Y0M≤	47	58	106	211	5.9	8.0	14.5	
2Y6M≤	14	22	38	74	2.1			
3Y0M≤	16	20	29	65	1.8	3.4	14.5	
3Y6M≤	16	12	28	56	1.6			
4Y0M≤	6	6	19	31	0.9	1.7	14.5	
4Y6M≤	4	5	20	29	0.8			
5Y0M≤	6	6	9	21	0.6	1.1	14.5	
5Y6M≤	5	2	12	19	0.5			
6Y0M≤	6	3	6	15	0.4	0.9	14.5	
6Y6M≤	3	2	13	18	0.5			
7Y0M≤	<7Y6M	3	4	17	24	0.7	0.7	

表3

麻疹ワクチン接種状況（和歌山市）＝＝生れ年別接種数＝＝

データベース上の接種月		H9		H10		H11		H12		H13		H14		
H9	1月～3月	未記入												
	4月～9月	937												
	10月～12月	458												
H10	1月～3月	436	185											
	4月～9月	540	876											
	10月～12月	113	468											
H11	1月～3月	86	470	188										
	4月～9月	139	594	1033										
	10月～12月	40	100	464										
H12	1月～3月	32	59	523	203									
	4月～9月	72	136	617	1155									
	10月～12月	14	24	61	329									
H13	1月～3月	15	40	56	558	294								
	4月～9月	38	48	113	522	1276								
	10月～12月	11	13	30	77	447								
H14	1月～3月	8	12	28	61	577	306							
	4月～9月	20	30	48	70	415	1366							
	10月～12月	未整理		未整理		未整理		未整理		未整理		未整理		
最終期限	H16.6.末		H17.6.末		H18.6.末		H19.6.末		H20.6.末		H21.6.末			
H14.9末現在 接種数	2937		3055		3161		2975		3009		1672			
接種者数/出生数 (%)	74.75		81.55		86.82		84.42		82.06		46.86			

H9.4からデータベース事業を開始

H9.1～3の3か月分は入力されていない

表4

予防接種名	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度(1歳6ヶ月)		平成14年度(3歳)	
	対象者	接種者率(%)	対象者	接種者率(%)	対象者	接種者率(%)	対象者	接種者率(%)	対象者	接種者率(%)	対象者	接種者率(%)
集団ポリオ	733	713 97.3	837	781 93.3	708	590 83.3	710	697 97.9	685	495 75.5	734	582 86.7
日本 I 期	1113	882 79.2	575	551 95.8	735	603 82	714	598 83.8				
髄膜炎 II Ⅲ期	882	578 65.6	888	667 75.1	902	728 80.7	868	606 70.7				
DPT I 期	718	218 30.4	1016	527 51.9	753	554 78.9	702	574 81.8	685	434 86.4	734	458 86.3
DT II 期	801	610 72.6	721	658 91.3	661	634 95.9	623					
風疹(12～90月)	1434	887 61.9	1669	1127 67.5	738	571 77.4	732	583 79.6	685	4 0.8	734	487 72.6
別 (経過措置)	770	449 58.3	877	519 59.2	854	550 64.4	679	352 60.8				
麻疹	719	402 55.9	934	574 61.5	998	823 82.5	741	668 90.2	685	419 64.1	734	461 86.7
集団BCG(4歳未満)									615	94		615 94

表5

1歳6ヶ月健診時予防接種率聞き取り調査 (定期分とBCG) 御坊市

	平成13年度		平成14年度	
対象児	271		255	
受診者	242		228	
受診率%	89.3		89.4	
ワクチン名	接種数	%	接種数	%
ポリオ2回	187	77.3	181	79.4
DPT 1期	145	59.9	147	64.5
DPT Ⅱ期				
風疹	66	27.3	84	36.8
麻疹	196	81	215	94.3
BCG	213	88	214	93.9

表6

1歳6ヶ月健診時予防接種率聞き取り調査 (定期分とBCG) 日高郡(注)

	平成13年度		平成14年度	
対象児	401		346	
受診者	385		332	
受診率%	96		96	
ワクチン名	接種数	%	接種数	%
ポリオ2回	295	76.6	276	83.1
DPT 1期	210	54.5	189	56.9
DPT Ⅱ期				
風疹	147	38.2	125	37.7
麻疹	245	63.6	260	78.3
BCG	358	93	318	95.8

平成14年度は御坊市、日高郡とも12月まで (注) 由良、日高、川辺、美浜、印南の各町中津村、美山村は除く

堺市における麻疹および風疹ワクチン累積接種率調査

安井 良則（堺市保健所） 奥野 良信（大阪府立公衆衛生研究所）
崎山 弘（崎山小児科） 高山 直秀（東京都立駒込病院小児科）

[目的]

大阪府堺市では平成 13 年夏期に実施した麻疹に関する調査において、麻疹ワクチン接種率が 1 歳 6 か月児健診受診児で 73%、3 歳児健診受診児で 90%との結果を得た。この調査と前後して、堺市では麻疹ワクチン 1 歳早期接種に向けた様々な啓発活動が開始された。今回平成 14 年夏期に、1 年後の麻疹ワクチン接種啓発の効果をみることに、更には新たに風疹ワクチン接種の状況を調査することを目的として、1 歳 6 か月児健診受診児および 3 歳児健診受診児に対する麻疹および風疹ワクチン累積接種率の調査を行ったので、以下に報告する。

[方法]

平成 14 年 7 月から 9 月にかけて、堺市にある全ての保健センター（7 保健センター）で実施された 1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診において、健診実施対象となる児の保護者に対して予め所定の用紙（資料 1）を送付し、児の麻疹罹患歴、麻疹ワクチン接種歴、および風疹罹患歴、風疹ワクチン接種歴を記入の上、健診会場（各保健センター）にて点検・回収した。データ入力は全て堺市保健所において行った。

C. 研究結果

1 歳 6 か月児健診受診児 360 名、3 歳児健診受診児 341 名に対して麻疹および風疹ワクチン接種率の調査を行った。麻疹ワクチン接種率の調査では、1 歳 6 か月健診受診児（月齢 18 か月時点）の各保健センターにおける接種率は総計 89%（84-96%）であり（表 1）、前年度の調査結果よりも大幅に上昇していた。3 歳児健診受診児における調査では、月齢 42 か月時点におけるワクチン接種率は総計 87%（80-98%）であったが、対象児の月齢 18 か月時にける接種率は総計 69%（60-81%）であった（表 2）。累積接種率折れ線グラフを比較すると、1 歳 6 か月児健診受診児においては、月齢 12 か月以降のグラフの立ち上がりが早く、全ての保健センターにおいて月齢 13 か月の時点でワクチン接種率は 50%を越えていたが、3 歳児健診受診児ではグラフの立ち上がりが遅く、月齢 13 か月の時点で接種率が 30%を越えているところは認められなかった（図 1、図 2）。

風疹ワクチン接種率の調査では、1 歳 6 か月健診受診児（月齢 18 か月時点）での接種率は総計 56%（43-67%）であり、3 歳児健診受診児の調査では、月齢 42 か月時点で総計 83%（70-90%）であり、月齢 18 か月時点では総計 36%（29-42%）であった（表 3、表 4）。麻疹ワクチン調査結果と同様、ワクチン累積接種率曲線の立ち上がりは、全ての保健センターにおいて、1 歳 6 か月健診受診児の方が早かった（図 3、図 4）。

D. 考察

1歳6か月健診受診児における麻疹ワクチン接種率は16%もの大幅な上昇がみられた。堺市においては、1歳6か月児健診の受診率は毎年95%前後であり、ワクチン接種率の調査対象の選定は前年度の調査と同じ方法をとっているため、1歳早期における接種率は確かに大きく上昇しているものと思われる。

3歳児健診受診児を対象とした今回の調査結果では、月齢42か月の時点では90%近い麻疹ワクチン接種率がありながら、月齢18か月では地域によってばらつきはあるものの、概ね70%前後のワクチン接種率であった。堺市においてこれまで算出されてきた麻疹ワクチン実施率（麻疹予防接種を受けた7歳半までの児全員/麻疹予防接種対象者になった児全員）は平成12年度までは例年90%前後であったが、平成11年から12年にかけて麻疹の流行が発生した。麻疹対策としては、最多麻疹罹患年齢である1歳児の早期の麻疹ワクチン接種が最重要であるが、そのための指標として、ワクチン累積接種率調査は有用であると思われる。

今回は風疹ワクチン接種に関する調査も行った。風疹発生の中心は1-3歳の幼児であり、流行阻止の観点からも、適応年齢に達すれば早期のワクチン接種が望ましいといわれている。3歳児健診受診児に対する調査からは、これまで必ずしも多くの児が早期に風疹ワクチンを接種されてはいなかったことは明らかである。そして1歳6か月時健診受診児への調査からは、児の風疹ワクチン接種もある程度早まっているものと推察される。堺市は、平成13年度より、麻疹ワクチン接種の啓発活動を関係各機関と連携しつつ行っているが、風疹ワクチンに対して、新たな啓発活動は行ってはいない。しかしながら、麻疹ワクチン接種後2か月以内に風疹ワクチン接種を実施されている例も多く、麻疹ワクチン早期接種の実現が、風疹ワクチン接種の早期接種にもある程度貢献しているものと推察される。

資料1. ワクチン累積接種率調査用紙

麻しん（はしか）・風しんワクチン累積接種率調査用紙

このたび堺市では、今後の麻しん・風しん対策に役立てるために、従来の計算方式では不可能であった3歳以下のお子さん達における麻しん及び風しんワクチンの累積接種率の調査を開始いたしました。下記の質問にご記入いただくようお願いします。

堺市保健所

No.

※母子手帳等をご参照の上ご記入ください

お子様の氏名	お子様の生年月日	平成 年 月 日生	お子様の性別	男・女
1	お子様は麻しん（はしか）にかかりましたか		はい（月齢 ヵ月頃） ・ いいえ	
2	お子様は麻しん（はしか）ワクチンを接種されましたか		はい ・ いいえ	
3	お子様が麻しん（はしか）ワクチンを接種された場合は接種した日を右欄にご記入ください		平成 年 月 日接種	
4	お子様は風しんにかかりましたか		はい（月齢 ヵ月頃） ・ いいえ	
5	お子様は風しんワクチンを接種されましたか		はい ・ いいえ	
6	お子様が風しんワクチンを接種された場合は接種した日を右欄にご記入ください		平成 年 月 日接種	